

1 学校の教育目標 「**自主 自律 協働**」

2 合い言葉 「**拓く**」 ～未来を拓く学校づくり～

3 求める生徒の姿と教師の立ち位置

未来を生きる生徒たちには、自ら課題認識をし、学んだ知識や身に付けた技能をもとに主体的な解決への姿勢と他者との協働によって新たな道を切り拓いていく力を身に付けなければならない。教師は生徒の将来の自己実現を求めるため、一人一人への温かい生徒理解に立ち、教師自らが常に新しい自分を拓く姿を示しつつ、組織力を持って生徒たちの支援者にならなければならない。

生徒の実態

- ・落ち着いて授業を受けられる
- ・真剣に掃除する生徒が多い
- ・係やリーダーの呼びかけに応える生徒が多い
- ・部活動に一生懸命取り組む生徒が多い
- ・不登校、不適応生徒 約 **3.3%** (H28 3.9%)
- ・引っ込み思案で自分から進んで何かをすることが苦手な生徒が多い

4 三つの「拓く」（4期による指導改善サイクルの充実）

自分を拓く	仲間と拓く
<ul style="list-style-type: none"> ○授業改善 <ul style="list-style-type: none"> ・興味関心の持てる課題設定 ・意見を持ち、伝え合う授業 ・終末評価の位置づけ 日常的な学びの記録を根拠とする評価 ○常に努力と成果を認め励ます指導 ○30点以下10%未満を目指す学力向上 <ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導（2, 3年数学 3年英語） ・学力伸展会 ・帯時間の工夫 ○教師同士の学び合いによる指導力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ研による授業公開と指導法の交流 ・学力向上推進訪問の実施（公開 11/12） ○生活の自己指導力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルに関わる眠育や生活習慣の指導と保護者への啓発 ○中高連携・・・高校生学習サポート、英語観光案内、部活動連携（古城、飛驒神） 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級経営と生徒指導力 <ul style="list-style-type: none"> ・個に寄り添う指導 ・自己実現に向けた姿を価値付ける指導 ・相互理解を基盤にした人権感覚と社会性の育成 ○主体的、創造的な生徒会活動 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動による主体的活動 伝統と誇りを創り出す日常活動 （あいさつ・そうじ・合唱・授業） ・生徒会宣言を通じた人権教育 ○仲間と続ける部活動 <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、継続、仲間、主体性 ・社会人指導者との連携 ・一部活一ボランティアの実施 ○小中連携 <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ不登校未然防止のための情報共有や保護者との協調関係を築く指導 ・一日入学、体験授業、小中交流会の工夫
<p>特別支援教育（合理的配慮）の視点から見た個別の生徒理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相互理解を深め、思いやりに満ちた子ども達の間関係づくり ・発達障がい等に関する職員研修の充実 ・「ピース」との連携事業（障がい者理解） <p>特別支援学級（知的学級5人・1,2,3年 自閉・情緒学級5人・1,3年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員の共通理解のもと、教科担任制の拡充と学年を分けた指導体制の確立 ・教室環境の整備 ・通常学級との交流活動の充実 	
<p>ふるさとを拓く</p>	
<p>○身近に生きる人々の姿から、ふるさとの「もの」や「こと」を知り、「人」の思いに気づくことで、職業観を深め、ふるさとに貢献しようとする姿勢を育む。</p> <p>【一年】 ・飛驒市を知る（飛驒市の産業や名品、概要 市の産業構造やその現状と課題） ・地元企業を知る「職場訪問」の充実（半日から一日に）</p> <p>【二年】 ・「職場体験学習」の拡充（2日から3日に） ・地元職業人のプロ意識を学ぶ ・ふるさとの情景を表現した版画集「ふるさとを刻す」の作成と作品展</p> <p>【三年】 ・「広島」の惨状から復興するまでの広島の人々の生き様を学ぶ（平和教育を通して） ・学んだことを通して、ふるさと飛驒市に対する夢やビジョンや自らの目指す生き方を示す。</p> <p>【全校】 ・英語観光ボランティア ・地域貢献カードによるボランティア推進 ・MSJリーダーズ</p>	